

高木復興大臣ぶら下がり記者会見録（宮城県訪問）  
（平成28年2月11日（木）15:45～15:50 於）仙台市営地下鉄荒井駅）

1. 発言要旨

本日は仙台市を訪問させていただきまして、南蒲生浄化センター、荒井地区土地区画整理事業を視察させていただきました。南蒲生浄化センターは、100万人が住む、仙台市内の汚水の7割を処理する施設ということでございまして、通常なら10年はかかる復旧工事を、世界でも前例のないスピードで進めて、今年度末に完成させるとお聞きをいたしました。

また、大学と連携をし、下水処理から石油成分を生産する、藻類バイオマスのプロジェクトも進んでいることをお聞きしました。下水道の新たな可能性を探る挑戦が生まれていると感じたところでございます。

また、荒井地区は地下鉄の開業に合わせて、大規模なまちづくりが進んでおります。震災で自宅を失った被災者の移転先となっており、仙台の「再起の地」として、荒井駅から未来のまちづくりが始まろうとしているということを押見させていただきました。ここに明日、仙台3.11メモリアル交流館がオープンをするということでございまして、その最終の仕上がりの作業も視察させていただきました。津波の記憶を伝承し、風化を防ぐという意味で大きな意味があるというふうに思います。今後も被災地に寄り添いながら、現場主義に徹して、きめ細かな対応を行い、被災地復興のさらなる加速化に向けて、全力で取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

私からは以上でございます。

2. 質疑応答

（問）今日は県内5回目の視察で、今年になって初めてということなんですけれども、いかがでしょうか。仙台市内を見て、どんな感想を持たれましたか。

（答）知事さんともお会いをしました。副市長さんともお会いをしました。大変な被災の状況から確実に、着実に復興が進みつつあるというふうに思っております。そうした中であって、今日は新しく挑戦をなさっている企業の方とかのお話をお聞きいたしましたけれども、そうした厳しい状況の中で、こういった被災に負けずに頑張っているという。もちろん、首長さん、あるいはまたその行政という方たちも頑張っていますけれども、いよいよ民間の方たちも、産業あるいは生業の創生に向けて、頑張っているなど。正に丸5年経ちつつある。まもなく経ちます。いよいよ復興創生期間を迎えますけれども、そうした息吹というようなものを感じさせていただきました。

（問）東北観光復興元年という位置付けをしているということなんですけれども、2016年度からどのような施策というか、お考えでしょうか。

（答）まずは、インバウンド2000万人という時代を迎えましたけれども、残念ながら、東北まだ発災前にも戻っていないような状況です。やはり、その観光というものは、人口減少時代において、交流人口を増やすという意味で、

地域の活性化に大いに資すると思いますので、今、審議中でありますけれども、予算もかなりつけさせていただきました。アドバイザー会議というのも立ち上げさせていただきましたし、14日には南三陸でその会議もやっていただきますけれども、しっかりと東北にインバウンドがたくさん来ていただく。あるいは教育旅行、修学旅行、これもまだ戻っていないということでありますから、そういう方たちを、また戻ってきていただけるように、具体的にどうやっていくかは、これから県、あるいは市、町、そしてまた、先ほど申し上げたアドバイザー会議の委員の先生方、そういった方たちと練り上げていって、3月には、この春には提言を出して、どういった形でこの東北の観光をよみがえらせるか、方策も出させていただきますと思います。それに基づいて、具体的に施策をやっていって、多くの方に東北に来ていただくということが出来るのではないかなというふうに思っております。

(問) 私から最後ですけれども、今日南蒲生処理場、この区画整理の荒井の周辺などを見て、どのような感想を持たれましたか。

(答) 先ほども申し上げましたけれども、大変な被災の状況の中から、正に世界に類を見ないようなスピード感をもって、この南蒲生の浄化センターも今年度中には完成ということでございますから、この皆さん方の、本当に大変な中ではありましたけれども、力強さというのを感じましたし、それからこの区画整理事業拝見しても、着実に復興は進んでいるということかというふうに思います。先ほど申し上げましたけれども、これからいよいよ、こういったこと、いわゆるハードにプラスして、生活だとか、産業だとか、なりわいだとか、そういったようなものをしっかりとやっていく。そのために復興庁としてしっかりと支援をしていくことだというふうに思います。

ありがとうございました。

(以 上)